

リアス式海岸しきかいがんはどうして今の形いま かたちになったの

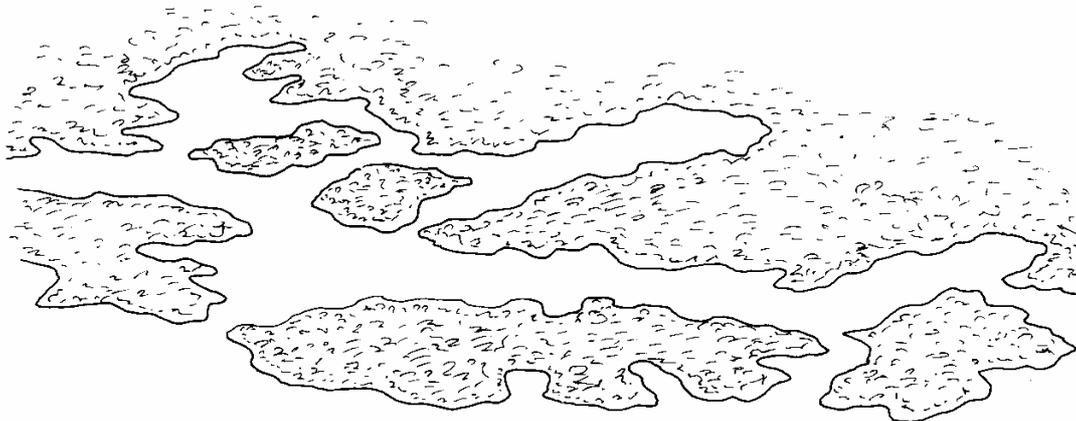
陸地りくちが海うみにしずんでできる

山やまがたくさんつらなっているような所ところが海うみにしずむと、低い土地ひく とちには海水かいすいが入はいってきて高い山たか やまの上うへの部分ぶぶんが海面かいめんの上うへに出でます。そうすると、小さい島ちい しまが入りくんだ複雑ふくざつな海岸線かいがんせんをつくれます。

このような海岸かいがんは、スペイン北西部ほくせいぶのカンタブリア山脈さんみやくが海うみにせつする所ところに見みられ、そこを「リア」とよんでいることから、リアス式海岸しきかいがんといえます。

三陸海岸さんりくかいがんなどに見みられる

日本にっぽんでは、東北地方とうほくちほうの三陸海岸さんりくかいがん、近畿地方きんきちほうの志摩半島しまはんとうや若狭湾わかさわん、四国しこくと九州きゅうしゅうの間あいだの豊後水道ぶんご すいどうに面めんした所ところなどにあります。リアス式海岸しきかいがんは、海岸線かいがんせんが入りくんだ、たいへん美しい景色けしきをつくりだしています。（監修・国司 真）



リアス式海岸 小さい島が入りくんだ海岸線をつくる

